

# 写真メディア領域

写真メディア領域では、写真をメディアアート全体の中で捉え、写真制作と写真理論の両面の研究を一層深め、写真家・写真研究者として、次の時代を担う人材を養成します。写真メディアは、現代においても、さらなる広がりをみせており、これからの時代に向けて、新たな領域を切り拓いていくことができる、基礎力・応用力・企画力が身に付く教育を推進します。また、社会に積極的に関わり合いながら、写真メディアを用いた創造的な活動を通して広く社会に役立つ人材を養成します。

## 教員の紹介

Professor Introduction



内藤 明  
教授

**研究テーマ** ● 写真表現とデジタルシステム  
**メッセージ** ● 高性能なデジタルシステムにより写真表現は道具の選択肢が広がった。その拡張された環境の中で写真表現を考えたい。

**【専門分野】**  
写真制作  
写真システム  
**【担当科目】**  
写真表現特論II  
写真学特別研究



吉田 成  
教授

**研究テーマ** ● 写真表現及び写真の史料学的研究  
**メッセージ** ● 写真の歴史や写真画像の保存等について研究することにより、写真を見る確かな目を養い、新しい写真表現について考えたい。

**【専門分野】**  
写真表現  
写真史  
写真画像の保存  
**【担当科目】**  
写真表現特論演習I  
写真学特別研究



吉野弘章  
教授

**研究テーマ** ● 社会の中でのメディアとしての写真の様々な可能性について研究します。また、写真をコミュニケーションの道具として活用するための技法などについても研究していきます。  
**メッセージ** ● 芸術表現についての総合的な見地から、時代と向き合い、まったく新しい写真のジャンルをも創ってしまおう。そんな気持ちで一緒に研究と制作を進めていきましょう。

**【専門分野】**  
アートプロデュース  
アートマーケット史  
写真編集  
エキシビジョンデザイン  
**【担当科目】**  
写真表現特論演習IV  
写真学特別研究



村山康男  
教授

**研究テーマ** ● 戦後の日本文化における写真の位置  
**メッセージ** ● 戦後日本文化の中で写真はどのような役割を果たして来たのか、また今日のポストモダンの時代において、写真はどのような方向に進んでいくべきか、欧米の戦後写真の展開を参照しつつ考えたい。

**【専門分野】**  
写真理論  
戦後日本文化論  
**【担当科目】**  
写真表現特論演習III

## 本領域で育てる人材

diploma policy

写真メディア領域では、自己の研究テーマについて理論的に論じられる人材を育成します。写真理論の研究者を目指す学生は、専門領域の調査・研究を一層深め、写真メディアの学問的確立を図ります。また、写真制作の研究の深化を目指す学生は、作品の質を高めるだけでなく、自己の作品について理論的に論じられる能力を向上させます。

## 教育内容

curriculum policy

各専門分野の研究を深め、作品、論文、プレゼンテーションの質を高め、写真を社会で一層機能させるための人材を育成できるよう、カリキュラムを構成しています。

## 写真メディア領域授業科目一覧 (H23年度開講科目予定)

写真表現特論II (H23年度休講予定)	内藤 明	写真の種々の制作システムを利用した描写特性から写真表現について議論します。
写真表現特論III	池田陽子	現在活躍している写真家、ある評価をすでに受けている写真家を例に制作していく上での実際の考え方をビデオ、出版物、写真展を活用して講義を行います。
写真表現特論IV	畑 鉄彦	写真における表現性は、写真的な意味における画質と密接な関係にあると考えられます。本講義においては、様々な画質の写真を資料として、それぞれにおける表現性について考察を加えることによって、写真の画質による表現性の確認をします。画質のファクターとしては、撮影機材による影響が大きく考えられるので、機材についての考察にもウエイトを置きます。
写真表現特論演習I (H23年度休講予定)	吉田 成	写真の歴史的研究、写真画像の保存、作品研究などに関する演習を繰り返すことにより、写真家・写真研究者としての資質を高めることを目指します。
写真表現特論演習III	村山康男	国内外の写真家・写真研究者の中から数人を取り上げ、彼らの作品や論文が提起する様々な問題を考察するとともに、受講者自らが制作や理論の分野で、独自の作品を制作し、あるいは理論研究を論文としてまとめていく能力を養成していきます。
写真表現特論演習IV	吉野弘章	写真を取り巻く状況は日々刻々と変化しています。近年では、写真はデジタル化され情報として大量にネットワークを行き来するようになり、その一方で現代美術として美術館で鑑賞され、アートマーケットで高く評価されるようになっています。本演習では、まず現代の写真を巡る様々な状況について知ることを目的とし、いくつかの現代写真のあり方について分析し、シュミレートしながら、自らの制作へのフィードバックすることを到達目標とします。
写真学特別研究	内藤・吉田・吉野	それぞれの「特論」「演習」によって学習した写真表現の理論体系を、自己発現として、具体的な写真表現の形で完結することを究極の目的に捉え、自己の表現を完結するための表現理論の体系を完成させ、自己の表現と自己の技法のトータルシステムを合目的に構築し、その上で、写真が内包する記録・表現・伝達のメディア特性の本質の理解を深化させ、さらに、写真の有する社会的機能性をより拡大する思考性を獲得させるべく指導し、修士研究・修士制作の形で完成を目指します。

※所属する研究領域において開講されている科目です。